

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	ヒト脳内加齢関連分子：TMEM106B を標的とする新規 PET 放射性薬剤の開発研究
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	【対象者】 本研究の対象は、新潟大学脳研究所病理学分野における病理組織学的検索により老齢健常者、若年健常者、ならびにアルツハイマー病患者と判断された方々で各 2～3 例です。これらの検体は、死体解剖保存法の規定に基づいて新潟大学脳研究所病理学分野・脳資源科学分野に標本として保管され、かつ本学および関連病院において、試料提供者のご遺族にインフォームドコンセントを受けた際に同意を得て上記教室メンバーが行った病理解剖例を用います。 【対象期間】現在まで。
③ 概要	認知症は加齢が最大のリスク要因の一つですが、その理由は十分には明らかになっていません。本研究においては、生体脳老化バイオマーカーの開発を目的として、患者さんの脳サンプルを用い、加齢とともに蓄積する異常凝集タンパク質 TMEM106B を標的とした新規 PET プローブの開発を行います。
④ 申請番号	2026-0101
⑤ 研究の目的・意義	神経変性疾患及び健常高齢者の脳内で蓄積が認められた TMEM106B 凝集体と蛍光アミロイド染色剤や既存のアミロイド・タウ PET プローブを基に設計・合成した候補化合物を用いて結合特性の評価を行うことで TMEM106B 凝集体への結合性を評価します。開発した PET プローブを用いてさまざまな認知症疾患患者における脳内異常蛋白蓄積、神経障害、神経炎症と脳加齢との関連性を評価します。TMEM106B に対する診断バイオマーカーの開発を進めることで、脳の加齢を定量化し、老化や認知症疾患の様々な診断バイオマーカーの開発・評価に貢献します。
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から 2026 年 3 月 31 日まで
⑦ 情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	この研究で得られた結果は、死後脳および付随する個人情報（脳組織所見、年齢、性別、臨床判断、罹病期間、治療経過、処方歴）とともに、学会や医学雑誌などに発表されることがあります。ただし、個人情報（名前や住所、電話番号など）が公表されることは一切ありません。
⑧ 利用または提供する情報の項目	死後脳のホルマリン固定パラフィン包埋切片および OCT コンパウンド包埋急速凍結切片、凍結脳組織、およびそれに付随する臨床情報（脳組織所見、年齢、性別、病歴に関する情報（臨床判断、罹病期間、治療経過、処方歴））。個人を特定する情報を利用しません。

⑨ 利用する者の範囲	新潟大学脳研究所ブレインヘルスケア領域脳解析技術応用学分野および脳病態評価技術創生学分野、脳生理機能・修復領域脳病態データサイエンス分野で利用いたします。
⑩ 試料・情報の管理について責任を有する者	【所属】新潟大学脳研究所 ブレインヘルスケア領域 脳解析技術応用学分野 【職名】特任助教 【氏名】横山 裕香
⑪ お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学 脳研究所 ブレインヘルスケア領域 脳解析技術応用学分野 氏名：横山裕香 Tel：025-227-2265 E-mail：yuka.yokoyama.bri@niigata-u.ac.jp